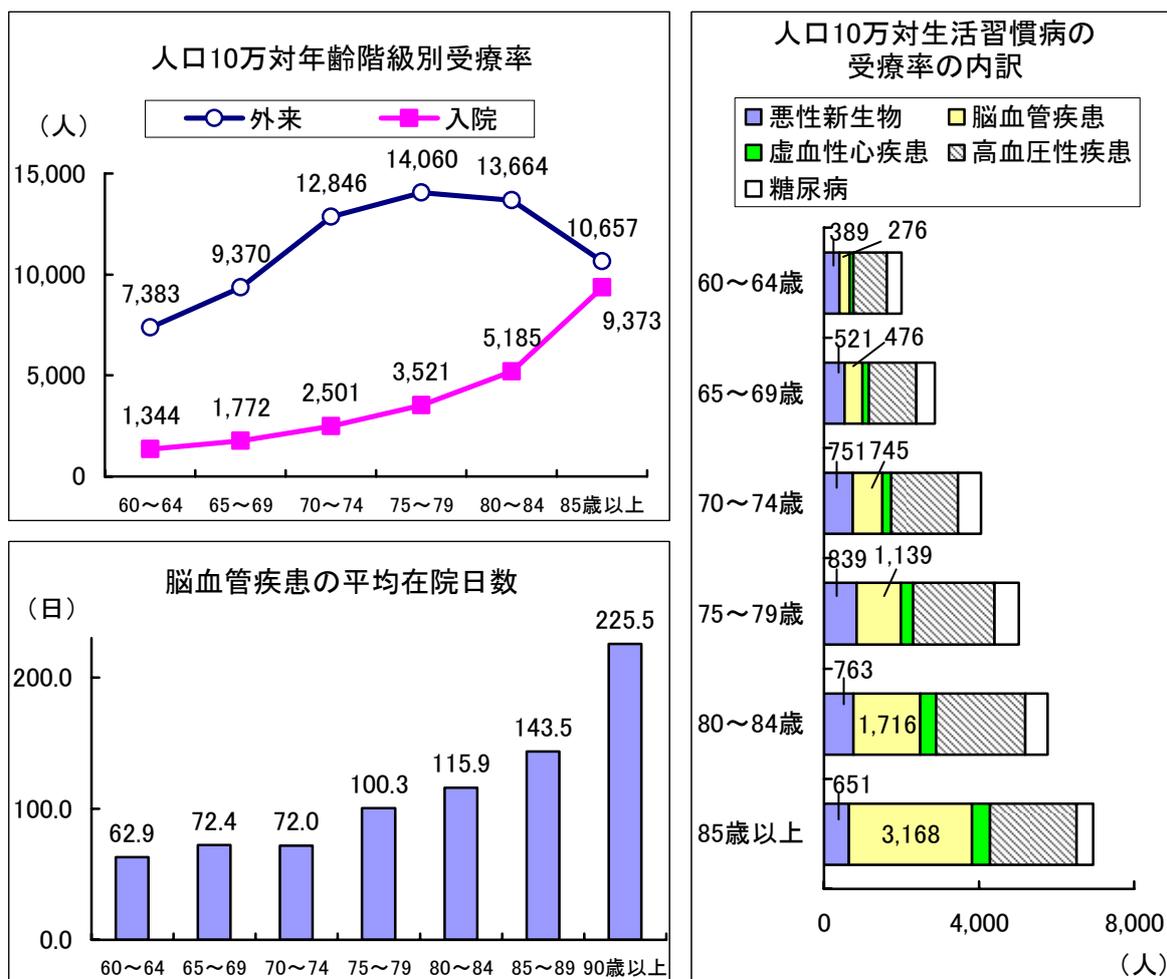


歳以上で年齢とともに急速に上昇する。外来受療率は75～79歳がピークである（図2-2-1）。

第二に疾病構造の違いである。生活習慣病の受療率は75歳未満では悪性新生物がもっとも高いが、75歳以上では脳血管疾患が悪性新生物を上回る。高齢者では疾病が長期化しやすいためであり、脳血管疾患の場合、75歳以上では平均在院日数が100日を超えている。

このように75歳以上の高齢者は疾病が発症するリスクが高まり、長期療養が必要になるので、そのためのより十分な医療が提供されなければならない。さらに受診抑制を生じさせないように、患者の経済的負担にも配慮し、特に手厚く支える必要がある。

図2-2-1 高齢者の受療率および平均在院日数(2005年)



*出所:厚生労働省「平成17年患者調査」,総務省「国勢調査」